



平成23年創始 武州狭山発祥  
同人結社 鬼姫狂<sup>®</sup>世界総本部  
偶像即神 萌燃一体 活劇至上 童心回歸  
<https://www.onihimekyo.com/>

「 空  
鬼 想  
神 霊  
童 武  
も 女 劇  
ぐ 遊  
ら 俠  
男 伝  
作 の /  
・ 穴  
民 掘  
富 り  
田 地  
智 獄  
明 「



平成23年創始 武州狭山発祥  
同人結社 鬼姫狂団 世界総本部  
偶像即神 萌燃一体 活劇至上 童心回歸  
<https://www.onihimekyo.com/>

未  
記  
入

粗  
筋



登場人物	鬼神童女・花吹雪のお凜	山狗・遠吠えの牙吉	山鴉・夜鳴きの飛丸	入間原清子	入間原堅次郎	森岡千恵子	不審者	妖賊・もぐら男	もぐら男の手下
	( 9 1 9 )	( 8 3 0 )	( 1 8 3 )	( 8 )	( 3 8 )	( 7 8 )	( 1 8 )	( 1 8 )	( 1 8 3 0 )



主題歌「鬼神童女遊俠伝」	獄「鬼神童女遊俠伝／もぐら男の穴掘り地	題字「鬼神童女遊俠伝」	伝説が幕を開ける	る使命を与えられたのである。今、新しい	を走らせ、邪悪な妖賊による悪事を警戒す	駆動車に擬態した白牛型の霊騎鳥獣疾風号	をぬいぐるみに擬態させて連れ歩き、四輪	山狗・遠吠えの牙吉、山鴉・夜鳴きの飛丸	ることになった。清子は、お凜様のお供の	様と同化し、世を忍ぶ仮の姿として行動す	州総鎮守秩父鬼姫山三代目・花吹雪のお凜	れ共に暮らしている。ある日、清子は、武	東入間屋一家七代目・入間原堅次郎と結ば	生・春小路清子は、旅館主にして侠客の関	語り「武蔵国の名門武家の血を引く女子高	童女物語絵巻』の断片。	現代になって新しく描かれた『新鬼神	○絵巻物
--------------	---------------------	-------------	----------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	---------------------	-------------	-------------------	------



○町の遠景

字幕「武州入間地方」

○どこの道路

疾風号が走っている。

○疾風号車内

セーラー服を着た入間原清子（18）  
が助手席に座り、入間原堅次郎（3  
8）の運転に身を委ねている。  
ふと、清子のリュックにぶら下がって  
いる小さいぬいぐるみ（擬態した山  
狗・遠吠えの牙吉と、山鴉・夜鳴き  
の飛丸）が話しかける。

牙吉「なんか不穏な空気だぜ」

飛丸「嫌な予感がするでやんす」

清子「妖賊？」

牙吉「わからねえが」

清子「偵察に行ってきた」



飛丸「わかっただやんす」

○どこかの道路

疾風号が止まり、牙吉を背中に乗せて

飛丸が偵察に出ていく。(鳥獣身変化)

○疾風号車内

堅次郎が懐から拳銃と短刀を取り出し

て確認する。

堅次郎「いつも不穏な空気だ」

清子の微笑に、銀次郎が微笑を返す。

堅次郎が拳銃と短刀を懐にしまう。

○どこかの上空

牙吉と飛丸が地上を探っている。

「あ、森の辺りが臭うぜ」

「行ってみるでやんす」

牙吉と飛丸が森に向かっている。



○  
ど  
こ  
か  
の  
森

疾風号が走り出す。  
牙吉と飛丸が疾風号に乗り込む。

清子 「乗って！」  
飛丸 「女の子でやんす！」

牙吉 「人さらいだぜ！」

清子 「どうだった？」  
牙吉と飛丸が疾風号に戻ってくる。

○  
ど  
こ  
か  
の  
道  
路

牙吉と飛丸が引き返していく。

飛丸 「姐さんに伝えるでやんす！」  
牙吉 「こりゃあ、まずいぜ！」

る  
様  
子  
が  
見  
え  
る  
。

女・森岡千恵子（7〜8）を誘拐す  
ランドセルを背負った小学生の少

持った謎の不審者（18〜30）が、  
シャベルを

○  
ど  
こ  
か  
の  
森  
の  
上  
空



千恵子「きゃああっ」

不審者が銃を撃つて千恵子を脅す。

「めてやるから、心を込めて掘り続けろ！」

不審者「これはお前の墓穴だぞ。すっかり埋

千恵子「嫌あ：：」

不審者「うるせえ。精根尽きるまで掘れ！」

千恵子「こんなのおかしいよ：：」

不審者「黙って穴を掘り続けるんだ。俺を楽

な

千恵子「お願い、帰して：：。なんで、こん

穴掘りごっこはいいぜえ：：」

不審者「ああ：：。そうだ、その調子だ：：。眺めながら、息を荒げる。ヤベルで穴を掘らせている。不審者が千恵子に銃を突きつけて、シ





千恵子「お姉ちゃん：：」  
 清子が、千恵子の傍に立ってかばう。  
 堅次郎が斬撃を避けていく。  
 不審者が斬りかかっていき、堅次郎が  
 不審者の短刀を抜く。  
 不審者の銃が弾き飛ばされる。  
 不審者「ぐあっ」  
 堅次郎が銃を抜き撃ちする。  
 堅次郎「野郎！」  
 不審者が清子を銃で撃とうとする。  
 不審者「女子高生が偉そうな！俺の穴掘り  
 恥を知りなさい！」  
 清子「大の男が小さな女の子を弄ぶなんて、  
 不審者「なんだ！」  
 清子「やめなさい！」  
 その時、清子と堅次郎が駆けつける。  
 千恵子は泣きながら穴を掘り続ける。



も 清 堅 堅 堅 千 不 堅 不 不  
 ぐ 子 次 次 次 恵 審 次 審 審  
 ら 「 郎 郎 郎 子 者 郎 者 者  
 も 男 お 堅 「 ながら 変 不 堅 「 不 不  
 ぐ 「 兄 次 ぐ ながら 化 審 次 審 審  
 ら 死 次 っ 短 する。 者 郎 者 者  
 男 ね 郎 は 刀 堅 者 が 片 隙  
 が ！ ん ！ 挑 次 郎 が 瞬 腕 見  
 堅 ！ 「 む が、負 郎 は、も 一 斬  
 次 ！ いて 傷 郎 は、も 瞬 に 返  
 郎 に 苦 する。 傷 郎 は、も 瞬 に 返  
 襲 悶 する。 する。 する。 する。 返  
 い か する。 する。 する。 する。 返  
 か する。 する。 する。 する。 返  
 かる。 する。 する。 する。 返



もぐら男「おめえが、あの鬼神童女か！い

と断じて許せん！わしら鬼姫山三神が

すもとで、己の歪んだ欲のため娘を弄ぶ

お凧様「極悪非道な妖賊め、お天道様の照ら

飛丸「夜鳴きの飛丸、参上！」

牙吉「遠吠えの牙吉、参上！」

雪のお凧、只今参上！」

お凧様「武州総鎮守秩父鬼姫山三代目、花吹

獣頭人身、鳥頭人身に正体変化する。

すぐに、牙吉と飛丸がぬいぐるみから

のお凧（9）に変化する。

清子が、一瞬にして鬼神童女・花吹雪

清子「鬼神童女変化！」

清子が足を開いて全身に力を込める。

もぐら男が吹っ飛んで転がる。

な拳を食らわせる。

清子「うおおおっ」

清子がもぐら男に向かっていき、強烈



刀の斬り合いと素手での殴り合いが  
お凧様と牙吉飛丸は、銃の撃ち合いと  
も次々と現れて襲ってくる。  
もぐら男の手下達は、倒しても倒して  
と寄り添う。  
千恵子は震えているが、堅次郎がそっ  
千恵子の傍に控える。  
戦いの中、負傷した堅次郎が後退し、  
達と斬り合いになる。  
お凧様と牙吉飛丸が、もぐら男の手下  
かかっていく。  
もぐら男の手下達が、お凧様に襲いか  
もぐら男「やっちまえ！」  
もぐら男「俺一人と思うなよ！」  
お凧様と牙吉飛丸が抜刀する。  
かっ来て来んかい！  
お凧様「小っちゃいやいからと侮るでないぞ。か  
勝てると思ってるのか？」  
きなり小っちゃくなりやがって！  
それで



堅次郎がもぐら男に短刀を突き刺す。  
 もぐら男に次々と弾が当たる。  
 を撃ちまくる。  
 堅次郎がもぐら男に向かっていき、銃  
 堅次郎「うおおおっ」  
 お凜様が苦悶する。  
 お凜様「ぬぬ：：」  
 お凜様も沈められてしまう。  
 飛丸が沈められる。  
 牙吉が沈められる。  
 していく。  
 もぐら男は強く、お凜様をガンガン押  
 もぐら男が、お凜様に襲いかかる。  
 もぐら男「それは俺の台詞だ！」  
 お凜様「次はきさんじゃ！」  
 もぐら男「役に立たん奴らめ！」  
 親分だけ残る。  
 もぐら男の手下が全滅し、もぐら男の  
 男の手下を倒していく。  
 入り乱れた戦いをし、次々ともぐら



もぐら男「大した度胸だあ。気に入ったぜえ」  
もぐら男は、堅次郎を突き飛ばし、強  
烈な一撃を食らわせる。  
堅次郎「ぐあっ」  
堅次郎は重傷を負い、倒れて苦悶する。  
もぐら男「俺の穴掘りごっこは、この程度で  
挫けねえぜ！」  
もぐら男は、千恵子を連れて逃げたい  
く。  
千恵子「助けてえっ！」  
お凜様「待て！」。  
お凜様と牙吉飛丸が立ち上がろうとす  
るが、間に合わない。  
もぐら男がいなくなる。  
お凜様が、倒れている堅次郎のもと  
に歩み寄る。  
お凜様「あにい……」  
お凜様が瓢箪水筒を手に取り、堅次郎  
を抱えて、霊泉酒を振りかける。  
堅次郎の傷が治っていく。



お凍様「疾風号く！」

○どこかの道路

「お凍様一行が森から出てくる。」  
「て走り出す。」  
「運転手を殺して引きずり出し、奪った。」

「もぐら男は、適当な車に向かっていき、」

○どこかの道路

「牙吉飛丸「おうっ！」」

「お凍様が大きいお凍様（19）になる。」

「飲む。」

「お凍様が霊泉酒を飲み、牙吉と飛丸も」

「堅次郎「もう慣れっこだ……」」

「お凍様が霊泉酒を堅次郎に飲ませる。」



お凜様が「逃がささんぞっ！」

○疾風号

お凜様が丁寧に運転をしている。

追走している。

○どこかの道路

もぐら男「追ってきやがった！」

もぐら男「追ってくるのが見える。」

○もぐら男の車

お凜様達が疾風号に乗り、走り出す。

お凜様が叫ぶと、すぐに疾風号が走っ





お 凍 様 一 牙 吉 ！ 飛 丸 ！

を 食 ら っ て 倒 れ る 。

牙 吉 と 飛 丸 が 、 お 凍 様 の 盾 に な っ て 弾

牙 吉 飛 丸 一 姐 さ ん っ ！

様 に 銃 を 撃 ち 返 す 。

も ぐ ら 男 は 、 倒 れ ず に 踏 ん 張 り 、 お 凍

も ぐ ら 男 が 走 っ て い く と こ ろ を 、 お 凍

様 が 銃 で 撃 ち 抜 く 。

く 。

お 凍 様 達 が 降 り て き て 、 更 に 追 っ て い

疾 風 号 が 適 当 な と こ ろ で 止 ま る 。

更 に 逃 げ て い く 。

も ぐ ら 男 が 千 恵 子 を 連 れ て 降 り て き て 、

も ぐ ら 男 の 車 が 適 当 な と こ ろ で 止 ま る 。

○ ど こ か の 河 原

○ ど こ か の 道 路

も ぐ ら 男 の 車 を 、 疾 風 号 が 追 い 続 け る 。



千 恵 子 「 う あ あ っ 」

も お ぐら 男 「 ああも う 面 倒 臭 え ! 穴 掘 り ごと っ 」

も ぐら 男 「 し っ け え 奴 ら だ ! 俺 は こ の 娘 と き っ け る 。 抜 刀 し て 千 恵 子 の 首 筋 に 突 っ け る 。 」

も ぐら 男 「 あ っ 」

も ぐら 男 「 槍 が 弾 き 飛 ば さ れ る 。 」

お 凜 様 「 ぐ あ っ 」

お 凜 様 の 銃 が 弾 き 飛 ば さ れ る 。

も ぐら 男 が お 凜 様 に 撃 っ て く る 。

お 凜 様 「 ぐ あ っ 」

撃 ち 返 す 。

も ぐら 男 が 回 避 し な が ら 、 お 凜 様 に 撃 ち 返 す 。

お 凜 様 が 回 避 し な が ら 、 も ぐら 男 に



お 凍 様 が も ぐ ら 男 を 斬 り つ け 、 更 に 斬  
 も ぐ ら 男 が 斬 り か か っ て い く 。  
 お 凍 様 が 受 太 刀 し な が ら 避 け て い く 。  
 も ぐ ら 男 が 思 わ ず 後 ず さ り す る 。  
 お 凍 様 が 蹴 り を 入 れ る 。  
 い 蹴 り を 入 れ る 。  
 も ぐ ら 男 が 、 お 凍 様 に 頭 突 き を し 、 重  
 て 睨 み 合 う 。  
 お 凍 様 と も ぐ ら 男 が 、 鏢 迫 り 合 い を し  
 お 凍 様 と も ぐ ら 男 の 刀 が ぶ つ か り 合 う 。  
 お 凍 様 と も ぐ ら 男 の 刀 が ぶ つ か り 合 う 。  
 男 「 う お お お っ 「  
 も ぐ ら 男 が 斬 り か か っ て い く 。  
 お 凍 様 「 う お お お っ 「  
 か っ て い く 。  
 お 凍 様 が 抜 刀 し て 、 も ぐ ら 男 に 斬 り か  
 お 凍 様 「 こ の 外 道 お お っ ! 「  
 千 恵 子 が 苦 悶 す る 。  
 る 。  
 堅 次 郎 が 、 千 恵 子 に 駆 け 寄 り 抱 き 留 め  
 千 恵 子 が 倒 れ る 。



潜 行 音 。 お 凜 様 に 弾 が か す る 。  
 お 凜 様 に 銃 撃 。  
 潜 行 音 。 お 凜 様 に 弾 が か す る 。  
 お 凜 様 に 銃 撃 。  
 潜 行 音 。 お 凜 様 を 弾 が か す る 。  
 お 凜 様 が 地 面 か ら 銃 撃 さ れ る 。  
 潜 行 音 だ け が 重 く 響 く 。  
 お 凜 様 が 周 囲 の 地 面 を 警 戒 す る 。 土 中  
 出 し て 土 中 に 潜 行 す る 。  
 も ぐ ら 男 が 納 刀 し 、 両 腕 で 地 面 を か き  
 お 凜 様 が も ぐ ら 男 に 斬 り か か る 。  
 も ぐ ら 男 「 く そ っ ー 」  
 お 凜 様 が も ぐ ら 男 を 強 烈 に 蹴 り 飛 ば す 。  
 り つ け る 。



千 恵 子 「 き や あ あ っ 」  
お 凜 様 の 苦 悶 の 叫 び 。  
お 凜 様 が 地 中 から 刀 を 突 き 刺 さ れ る 。  
潜 行 音 。  
牙 吉 と 飛 丸 に 弾 が 直 撃 し て 倒 れ る 。  
牙 吉 飛 丸 「 ぐ あ っ 」  
潜 行 音 。  
て 銃 を 撃 ち ま く る 。  
牙 吉 と 飛 丸 が 立 ち 上 が り 、 地 面 に 向 け  
お 凜 様 に 弾 が 直 撃 し て ぐ っ た り す る 。  
更 に 、 地 中 から 何 発 も 銃 撃 。  
お 凜 様 「 ぐ あ っ 」  
お 凜 様 に 弾 が 直 撃 し て 倒 れ る 。  
お 凜 様 「 ぐ あ っ 」  
お 凜 様 に 銃 撃 。





お 凍 様  
 も お 凍 様 が 、 刀 を 思 い 切 り 斬 り 下 ろ す 。  
 も ぐ ら 男 の 顔 が 引 き つ る 。  
 た れ る 。  
 お 凍 様 が 空 中 で 抜 刀 す る と 、 閃 光 が 放  
 走 駆 し て 高 く 跳 躍 す る 。  
 も ぐ ら 男 が ひ る だ と こ ろ 、 お 凍 様 が  
 の 連 撃 を 叩 き 込 み 、 蹴 り 飛 ば す 。  
 お 凍 様 が 斬 撃 を 避 け て 、 も ぐ ら 男 に 拳  
 も ぐ ら 男 が 斬 り か かる 。  
 も ぐ ら 男 が よ ろ よ ろ と 立 ち 上 が る 。  
 お 凍 様 が よ ろ よ ろ と 立 ち 上 が る 。  
 お 凍 様 が 納 刀 し て も ぐ ら 男 に 迫 る 。  
 も ぐ ら 男 が 崩 れ る 。  
 た ま ま 、 刀 を 思 い 切 り 突 き 刺 す 。  
 お 凍 様 が 、 も ぐ ら 男 に 短 刀 を 突 き 刺 し  
 も ぐ ら 男 「 ぐ お お っ 」  
 も ぐ ら 男 「 あ あ あ っ 」



流 郎 靈 小 ○  
 麗 が 竹 小 ど  
 な そ 笛 さ こ  
 美 そ 笛 い の  
 し ば を お 公  
 い で 吹 凜 園  
 音 立 いて 様  
 色 が っ 聴 が  
 が っ かせ 千  
 千 控 せて 恵  
 恵 えて いる と  
 を いる 並  
 包 いる んで  
 み 控 座  
 込 えて り  
 む いる 。 堅  
 が いる 。 次  
 。

少 女 、「う、うう：：、うわあああっ」  
 お 凜 様 、「もう、大丈夫じゃよ」  
 に 靈 泉 酒 を 振 り か け て 飲 ま せ る 。  
 お 凜 様 が 瓢 箆 水 筒 を 手 に 取 り 、 千 恵 子  
 お 凜 様 が 千 恵 子 の と こ ろ に 駆 け 寄 る 。  
 雪 の よ う に 血 飛 沫 を 上 げ て 倒 れ る 。  
 お 凜 様 が 納 刀 す る と 、 も ぐ ら 男 は 花 吹  
 も ぐ ら 男 、「ぐああっ！」  
 竹 割 り に す る 。  
 お 凜 様 の 刀 が 、 も ぐ ら 男 を 脳 天 か ら 唐  
 も ぐ ら 男 、「くそが：：」





疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。　　疾風号が走り出す。

○千恵子。疾風号が止まっている。お凜様と千恵子が向かい合っていて立っている。傍に堅次郎が立っている。

千恵子「助けなくていいの？」

お凜様「よし、今からわしら友達じゃよ」

千恵子「私、森岡千恵子っついていうの」

お凜様「わたしはお凜、花吹雪のお凜。うん」

私「清子。入間原清子」

千恵子「さよなら。清子お姉ちゃん」

清子「私。清子。入間原清子」

お凜様「お凜が清子に帰る。」

千恵子「さよなら。清子お姉ちゃん」

清子「私。清子。入間原清子」



○ 疾風号

堅次郎に運転を委ね、清子が助手席で眠っている。清子の右手は、堅次郎の左脚にポンと乗っている。

○ どこかの道路

疾風号が走っていく。

○ 絵巻物

「新鬼神童女物語絵巻」の断片。

終幕歌「未定」。

姫華視点でお凜様を歌った詞。

完